

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	29人	国語B	29人
② 算数A	29人	算数B	29人
③ 理科	29人		

5 留意事項

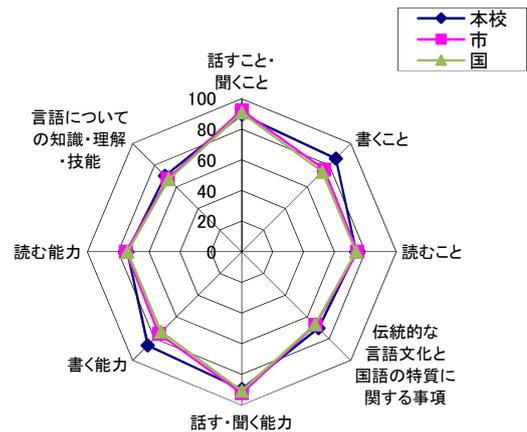
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

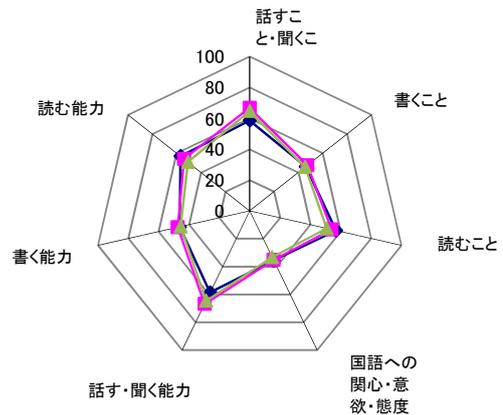
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	89.7	92.4	90.8
	書くこと	86.2	75.7	73.8
	読むこと	74.1	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.3	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	89.7	92.4	90.8
	書く能力	86.2	75.7	73.8
	読む能力	74.1	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	70.3	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	58.6	66.8	64.6
	書くこと	46.2	47.4	45.6
	読むこと	56.9	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	35.6	35.2	33.2
	話す・聞く能力	58.6	66.8	64.6
	書く能力	46.2	47.4	45.6
	読む能力	56.9	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

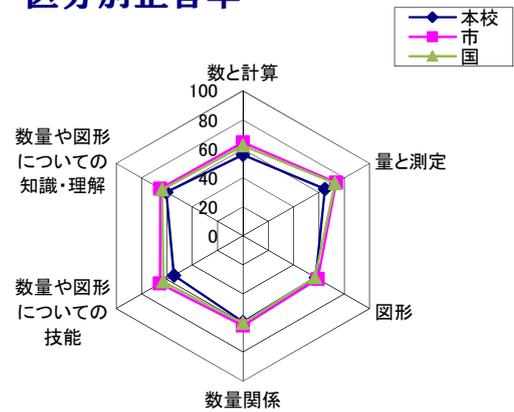
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>・Aでは本校の平均正答率が89.7%で市の平均正答率を0.03%ほど下回るが、ほとんど差がないと言える。Bでは58.6%で市の平均正答率を5.1%下回っている。</p> <p>○相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことの設問では、平均正答率が市の平均を下回っているものの89%以上であり、理解ができていると言える。</p> <p>●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる設問では、平均正答率が市の平均を8.9%下回っている。</p>	<p>○目的や意図に応じた言葉遣いや場に応じた言葉遣いについては、継続して指導していく。</p> <p>・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる力については、国語科の学習だけでなく各教科の言語活動を通して、友達と自分の意見の相違点を見出しながら話し合いをしたり、その内容をまとめて発表することができるように指導する。</p>
書くこと	<p>・Aでは本校の平均正答率が86.2%で市の平均正答率を13.4%上回っている。Bでは46.2%で市の平均正答率を0.2%上回っているがほとんど差がないと言える。</p> <p>○自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える設問では選択式ではあるがよく理解できていた。</p> <p>●目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く設問では市の平均正答率を上回っているものの13.8%と低く課題があると見える。</p>	<p>・目的や意図に応じて必要な内容を明確にして書くことについては、対象である読み手を明確に意識させたり、書く目的の共通理解を図ったりすることを通して、文章を吟味することができるように指導する。</p> <p>・また、書いた作品を読み合い、感想を述べあう機会を設けることで、語彙を増やしたり、表現力を向上させたりできるよう指導する。</p>
読むこと	<p>・Aでは本校の平均正答率が74.1%で市の平均正答率を1.6%上回っているが、ほとんど差はないと言える。Bでは56.9%で市の平均正答率を4.5%上回っている。</p> <p>○4つの設問の内、3つの設問に関しては市の平均正答率を上回った。</p> <p>●目的に応じて、複数の本や文章などを進んで読む設問では市の平均正答率を4.1%下回っており、課題があると言える。</p>	<p>・目的に応じて必要な情報を捉えたり、登場人物の心情について情景描写を基に捉えたりすることや目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに関する力はおおむね身につけていることが分かった。</p> <p>・目的に応じて複数の本や文章などを進んで読むことに関しては、図書館司書と連携を図り、図書資料やインターネット、の活用を通して、情報を読み取るなどのリテラシーが向上させられるよう指導していく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>・Aでは本校の平均正答率が70.3%で市の平均正答率を2.7%上回っている。</p> <p>○日常生活で使われている慣用句の意味を理解し使う設問では正答率が100%であった。漢字を文の中で正しく使う設問はほとんど市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●積極的の「積」の字を問う設問では平均正答率は41.4%であった。</p>	<p>・ことわざや慣用句については引き続き、継続的に指導していくことを通して、語彙力を高めていく。</p> <p>・今後も定着を図っていくことができるように、瑞穂野地域学校園共通の漢字ミニマムを活用していく。</p> <p>・同音異義語や同訓異字など間違いやすい漢字については、その都度、同じ読み方や似た部分を持つ漢字についても触れ、理解が深まるよう指導していく。</p>

宇都宮市立瑞穂野南小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

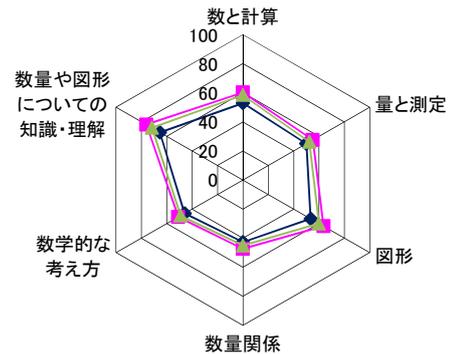
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	55.9	64.5	62.3
	量と測定	64.7	73.6	72.7
	図形	57.5	59.1	56.9
	数量関係	59.3	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	54.5	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	60.5	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	52.9	60.2	58.4
	量と測定	50.0	55.0	52.4
	図形	53.4	63.5	59.9
	数量関係	42.8	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	46.0	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	65.5	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

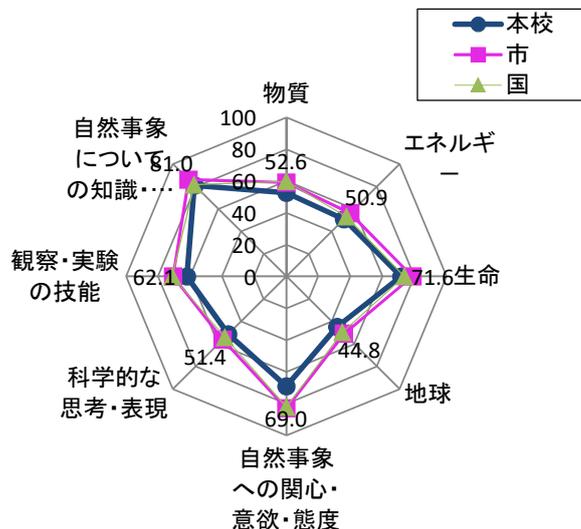
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>・Aでは、本校の平均正答率は55.9%で市の平均正答率を5%下回っている。Bでは本校の平均正答率は52.9%で市の平均正答率を4.2%下回っている。</p> <p>○示された情報を解釈し、条件に合う数値を求める設問では市の平均正答率を2.4%上回っている。</p> <p>●小数の除法の意味についての理解が市の平均正答率を9.8%下回っている。</p>	<p>・計算についてはドリルや単元プリントを活用して繰り返し練習ができるようにする。授業では関連のある既習事項を取り上げるなどして、基礎的な知識の定着を図る。</p> <p>・小数の除法に関しては、機会を捉えて計算の練習に取り組み、理解が深まるようにするとともに、特に苦手意識のある児童には個別指導を行う。</p>
量と測定	<p>・Aでは、本校の平均正答率は64.7%で市の平均正答率を7.9%下回っている。Bでは本校の平均正答率は50.0%で市の平均正答率を1.3%下回っている。</p> <p>○示された情報を解釈し、条件に合う時間を求める設問では市の平均正答率を2.4%上回っている。</p> <p>●単位量当たりの大きさを求める除法の式を商の意味を理解する設問では市の平均正答率を15.1%下回っている。</p>	<p>・答えを導き出すために使った考え方を図や言葉で説明したり、友達の考え方を聞いたりすることを通して、示された情報を基に筋道を立てて考える機会を増やしていく。</p> <p>・線分図や比・割合の考え方を利用する問題など折に触れて取り組み、理解が深まるようにする。</p>
図形	<p>・Aでは、本校の平均正答率は57.5%で市の平均正答率を0.6%上回っている。Bでは本校の平均正答率は53.4%で市の平均正答率を6.7%下回っている。</p> <p>○円周率についての意味や直径の長さや円周の関係についての理解ができている。</p> <p>●図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360°になっていることを理解しているかを問う設問では市の平均正答率を5.8%下回っている。</p>	<p>・図形問題では少人数で授業を行い、基本的な知識の定着が図れるようにする。円についての理解の定着が図れているので、機会を捉えて問題に取り組み、理解を深めるとともに、多角形や立体においても理解が深まるように指導していく。</p> <p>・多様な考え方や見方を身に付けられるよう学び合いの機会を増やしていくようにする。</p>
数量関係	<p>・Aでは、本校の平均正答率は59.3%で市の平均正答率を0.1%上回っている。Bでは本校の平均正答率は42.8%で市の平均正答率を1.6%下回っている。</p> <p>○1に当たる大きさを求める設問では、市の平均正答率を7.3%上回っている。</p> <p>●折れ線グラフから変化の特徴を読み取る設問では市の平均正答率を9.1%下回っている。</p>	<p>・グラフを見たり書いたりする機会を増やし、それぞれのグラフの特徴を捉えたり、その特徴を捉えて表現したりできるようにする。</p> <p>・1に当たる大きさを求める内容については、単位量当たりの大きさを求めたり、割合や比について考える機会を折に触れて持ち、理解を深められるようにする。</p>

宇都宮市立瑞穂野南小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	52.6	59.0	59.8
	エネルギー	50.9	56.4	53.1
	生命	71.6	78.6	73.6
	地球	44.8	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	69.0	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	51.4	56.1	54.1
	観察・実験の技能	62.1	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	81.0	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は52.6%で市の平均正答率を6%下回っている。 ○食塩を水に溶かしたときの全体の重さを答える設問では、市の平均正答率を4%上回っている。 ●実験結果から言えることだけに言及した内容を記述する設問では、市の平均正答率を16%下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験を行う際には、予想と結果、考察を自分の言葉で書き、考えを交流する機会を設けることで、端的に内容を記述することができるよう指導していく。 ・器具や機材の使い方などの確認を行い、繰り返し器具を扱う機会を設けていくことで、正しく器具を使用することができるよう技能を高めていくと同時に、実験の意味についても理解できるよう指導していく。
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は50.9%で市の平均正答率を3.6%下回っている。 ○回路を流れる電流の向きと大きさについて実験結果から考え直した内容を選ぶ設問では、市の平均正答率を6.8%上回っている。 ●乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを問う設問では、市の平均正答率を8.4%下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電流の流れや大きさについては、理科だけでなく日常生活において電化製品を扱う際など、電池の向きに気をつけさせたり、電池の数などの注目させることで、関心を高めたいけるよう指導していく。 ・他の教科でも環境問題について考える際に、電気エネルギーやクリーンエネルギーといわれるものを話題として提示し、考える機会を与えるようにする。
生命	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は71.6%で市の平均正答率を5.3%下回っている。 ○人の腕が曲がる仕組みを模型に適用する設問では、市の平均正答率を14.5%上回っている。 ●骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解しているかの設問では6.6%下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人や動物の体については、理科だけでなく保健体育や日常生活の場面において取り上げ、理解を深めるよう指導していく。 ・その際に既習内容にも触れ、学習した言葉や知識など復習するような機会が持てるよう指導していく。
地球	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は44.8%で市の平均正答率を5%下回っている。 ○堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解しているか問う設問では、市の平均正答率を7.3%上回っている。 ●実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるかを問う設問では20.7%と低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的な言葉や概念の理解については、理科だけでなく、他の教科やニュースなど折に触れて取り上げ、復習することで理解が深まるよう指導していく。 ・「地球」の区分に関しては、実験において日々の生活体験やメディアなどから得た知識などが多くと考えられるので、予想を立てたりや考察を記述したりすることに重点を置いた指導をしていく。また、友達との意見交換等を取り入れ、知識の共有化を図っていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「学校のきまりをまもっていますか」との設問に対して、肯定的な回答が93.1%であり、市の肯定的回答の割合を越えている。規範意識が大いにあると言える。「瑞南小のやくそく」を基にして指導や励ましを行い、今後さらに伸ばしていきたい。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の設問に対して、肯定的な回答が96.5%であり、これは市の肯定的回答の割合を越えている。人の役に立ちたいと考える児童が多くおり、奉仕作業等で熱心に働く児童が多い。今後も更に伸びるよう声掛けを通して励ましていく。
- 「朝食を毎日食べていますか」の肯定的な回答は100%である。同じ時刻に就寝・起床している児童の割合は市の割合を越えており、基本的な生活習慣が身に付いていると言える。家庭との連携を図り、引き続き基本的な生活習慣が身に付き、さらに自分で行動できるよう指導していく。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の設問に対して、肯定的な回答は82.8%であり、市の71.7%を10%以上超えている。また、「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」の設問に対して、肯定的な回答は86.2%であり、市の71.9%を15%以上上回っている。家庭学習の記録等を活用して、今後も計画的に学習ができるよう指導していく。また、家庭との連携を図り、更に強化していきたい。
- 「家で、学校の宿題をしていますか」の設問に対して、肯定的な回答96.6%であり、市の平均を0.8%ほど下回っている。100%を目指し、指導していく。
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の設問に対して、肯定的な回答は75.9%であり市の割合を上回っている。地域とのつながりが深いと言える。また、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の設問に対して、肯定的な回答は86.2%あり、62.8%の市の割合を大きく上回っている。学校に協力的な地域でもあり、地域との連携を更に強めていきたい。地域とふれあいを目的とした学校行事では学習発表会もあるので、このことを学習面での強みとして生かしていく。
- 「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」の設問に対して、肯定的な回答は93.1%であった。新聞のメディアも含め時事問題に対する興味や関心を更に高めていけるよう、折に触れて話題を提示したり、朝の1分間スピーチのテーマなどに取り上げたりしていきたい。
- 「新聞を読んでいますか」の設問に対して肯定的な回答が20.7%であった。これは市の平均を若干上回っているが、学校で新聞が閲覧できる環境にあるので、折に触れて時事問題に触れたり、投書を書く機会を持ち、更に高めていけるようにする。
- 算数の勉強に対して好きと答えたり、内容がよく分かるかと答えたりする肯定的回答の割合が高い。引き続きよく分かる授業を展開し、算数を好きになる児童を増やしていく。
- 「算数の勉強は大切だと思いますか」の設問に対して肯定的な回答は93.1%であり、市の割合の94.4%を若干下回っている。授業の折に日常生活で役に立つような場面を想起させたり、実際に役に立っていることなどを提示したりすることで、大切さに気付かせていく。
- 「理科の勉強は大切だと思いますか」の設問に対する肯定的な回答の割合は市の平均を上回っているが、「理科の勉強は好きですか」や「理科の授業の内容はよく分かりますか」の設問に対する肯定的な回答の割合は市の平均を下回っている。今後、授業の形態を工夫し、更に分かる授業を展開していくことで、理科を好きになる児童を増やしていきたい。

宇都宮市立瑞穂野南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・振り返る活動の充実 ・自分の考えをもち、それを文章にまとめて書く指導の充実 ・学習内容の定着と習熟に向けての指導の充実 ・家庭学習を習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や活動の振り返りを具体的にを行い、自分の状況を正しく認識できるようにする。 ・家庭学習の計画や実施状況を確認できるようにする。 ・授業の中で、発問を明確にしたり、文章で表現する機会を意図的に設定したりする。 ・学習内容の理解状況を確認する場を設定したり、類似問題に取り組む機会を設定したり 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童への質問紙では、「分かる」「できている」と回答する児童が多い。実態と児童の認識にずれがあると思われる。 ・計画を立てて学習していると答える児童が多い。実施状況については毎日記録しているが、偏りが見られる児童も多いため、認識のずれがあると思われる。 ・自分の考えを持つことはできるものの、その考えを話したり書いたりして言語化することが苦手な児童が多い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもちながら、それを表現することに課題が見られる。 ・基礎的な知識を活用した問題に対し、問題文が理解できなかったり、解いていく筋道が立てることが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容(算数)の定着と習熟に向けての指導の充実 ・少人数やTT、学び合いなどの授業形態の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、学習内容の理解状況を確認する場を設けたり、類似問題に取り組ませ、習熟を図ったりする時間を位置付ける。 ・児童が苦手とする単元においては少人数で行ったり、学び合いの活動などを取り入れたり、より深い理解を促す。